

2013年12月2日

「強い群馬をつくりたい 強い群馬高専をつくりたい」  
(JST「イノベーションコーディネータ表彰」を受賞して)

このたび、科学技術振興機構「イノベーションコーディネータ表彰」を受賞させていただきました。本受賞は、群馬県関係者として始めて、全国高等専門学校でも、第1号でした。45年間、群馬高専の教員として、群馬県産業界の発展にと研究活動を行ってきたことが評価されました。

受賞理由は、「炭素素材・水質浄化技術の研究成果をカキの養殖などに発展させ、東日本大震災の復興に寄与するなど、永年にわたる高等専門学校における経験によってシーズ発掘、外部資金獲得、技術移転、事業化など多様な実績を上げている。」であります。

私は、群馬で生まれ、群馬で育ち、群馬で学び、群馬高専で働く生粋の上州人です。「強い群馬をつくりたい、つよい群馬高専をつくりたい」、この目標に向かって、学生への教育と地域産業の振興にかかわってきました。

研究内容は、紙、炭、ごみ、水、髪、海と「み」の字がつくもの、その他、生糸繭、アスベスト等でありました。高専の研究環境は、予算面でもスタッフ面でも大学に比べ厳しいものがありました。だからと言って、研究活動を失速させることはできません。どうすれば、頑張れるか。苦しみ、もがき、悩みました。引きずり出した答えが、感性豊かな学生のパワーを活用した産学官の推進でした。

群馬高専で測定できない、実施できない研究では、外部の力を活用させていただきました。未知への挑戦、探求心、モノづくりへののめり込みは、高専学生のもつ最大の強みであります。それをチカラに、群馬高専を核とする産学官共同研究を積極的に推進してきました。

口先だけの産学官では、リピートオーダーはありません。頼りになる研究をしなければ、世間様は相手にしてくれません。国や県からの研究費は、国民の血税であります。無駄に使うことはできません。取り組んだからには、必ず成果を出す。このことを肝に銘じて実行してきました。

これまで連携した企業・地域および群馬県が大きく飛躍発展し、群馬で生まれ、群馬高専で学んだ卒業生が活躍できる、魅力ある受け皿となることを望んでおります。これからも、群馬県民に科学技術の素晴らしさを広め、深め、科学技術立国をさらに飛躍発展させる人材を、数多く輩出させるべく奮戦してまいります。

最後に、一緒に汗をかいてくださった群馬高専学生および教職員の皆様、群馬県民および産官学関係者の方々に感謝申し上げます。

ありがとうございました。